

「平等」をモットーに楽しみながら両立

株式会社デンソー

事業内容/自動車部品製造 本社所在地/愛知県刈谷市 従業員数/39,319名(2018年3月現在)単独



ダイバーシティを積極的に推進し、両立支援制度も充実しているデンソー(刈谷市)では、人事戦略室で働く太田寛二さん、西田礼子さんにそれぞれ1日ずつ受け入れてもらった。両家庭では夫婦ともにフルタイムで働いている。太田家では「平等」をモットーに、家事、育児の負担がどちらか一方に偏らないように、週替わりで退勤後の家事を担うなどのルールを定めている。「イクメンという言葉が嫌い」という太田さんは、家事を「手伝う」のではなく、二人の仕事として取り組んでいる。

西田さんは、「理想の母親、理想の妻をやめる努力」をしているという。「料理も家事も子育ても完璧」を目指すのではなく、献立づくりを補助する宅配サービスなどを活用したり、一人だけの時間を確保できるように努めるなど、夫と話し合い、協力し合っで分担している。さらに会社の制度も利用しているが、「制度に救われることが多いからこそ、成果をどう出すかを考えている」と話す。

夫婦が同じように働いているのだから、家のことも同じようにやるのが当たり前、と



名古屋大学3年 加納壮太さん

男性の育児参加に対する感覚が変化

男性は周りの目が気になって育児参加はしづらいもの、と思っていたが、大変そうだけど楽しんで両立している姿を見て、男性も育児参加していい、むしろするべきなんだ、という印象が変わった。将来は自分も夫婦で協力し合い、ロールモデルになりたいと感じた。



愛知大学2年 草間幸恵さん

将来を不安視せず 一歩ずつ進む

無意識に家庭の仕事は女性を中心になってやると思っていたが、意識が変わった。「将来のことを想像すると不安になるかもしれないけど、課題は順番に来るから一歩ずつ取り組んで」という言葉が印象に残っている。先のことを心配しすぎないようにしたい。

いう考え方に触れ、母親が家事をするのが当たり前だと思っていた自分たちの考え方が間違っていたと気づかされたインターン生。「楽しみながら両立に取り組んでいる姿が印象的だった」と自分たちの近未来の姿を想像した。



仕事が好き

仕事と家庭の  
インターンシップ  
Report in あいち



家族が好き

愛知県では、今後、社会の担い手となる若い世代の方が、仕事と家庭の両立体験を通じ、長期的な視野で人生設計を考える「仕事と家庭のインターンシップinあいち」を実施しました。このインターンシップは、学生が企業等での就業体験をするだけでなく、そこで働く子育て中の従業員の家庭を訪れ、家事や育児もあわせて体験するもので、10名の学生(2人1組)が6家庭を訪れ、仕事と家庭の両立について理解を深めました。

仕事と家庭のインターンシップ in あいち

インターンシップ 1日のおおむねの流れ

企業等での インターン	13:00 出社・自己紹介等	家庭での インターン	17:30 保育園にお迎え
	14:00 職場見学・仕事体験		18:00 家事・育児体験(夕食の準備・遊び)
	15:00 先輩社員等のインタビュー		19:00 夕食・家族と対話
	17:00 退社		20:00 帰宅

【受け入れ先の方の声】

- ▶ 仕事では苦労も多いが、私生活はなるべく「楽」をして「楽しむ」ことを心がけています。そこに注目してもらったことは、学生にとっても前向きな変化かなと思う。自分自身のワーク、ライフを考え直す機会になりました。  
(株式会社ミスコンシャス 代表取締役 小山絵実さん)
- ▶ 我が家では子どもたちも含め全員が家事を担わないと回っていかないと考えていて、チームで取り組んでいます。また一生懸命仕事をしていれば会社を変えることもできる、という点が学生に伝わったのが嬉しく思います。  
(春日井製菓株式会社 総務部 松下あゆみさん)
- ▶ 発表を聞いて家庭や業務などの現状を伝え合う大切さ、難しさなどを感じ取っていただけたかと思う。自分たちが就職して、両立するようになった時に、話し合いを諦めないで頑張ってください。  
(瀬戸市役所 都市整備部 平塚啓さん)
- ▶ 家庭に受け入れたことで普段話すことのない働く価値観について夫婦で話げできました。両立と難しく構えず、働き続けたいという思いを大切に仕事も家庭も楽しむ姿が伝わってれば幸いです。  
(株式会社山田商会 人事部 山崎晴香さん)
- ▶ 子育ては家庭によって異なるものなので、実際の現場を見てもらえてよかった。「仕事と家庭の両立」という言葉を使わなくても良い社会が来るように、今の当たり前を変えるという決意を自分自身も持ちました。  
(株式会社デンソー 人事部 太田寛二さん)
- ▶ 自分にとってもインターン生との出会いは、学生の頃の自分を思い出し、働く意味を意識し直す事ができた貴重な経験でした。  
(株式会社デンソー 人事部 西田礼子さん)



そう言える働き方を



# Report 1

## 代表の経験が活かされた、子育てを支え合う職場

株式会社ミスコンシャス

□事業内容/ドレス・アクセサリーのレンタル □本社所在地/愛知県蒲郡市 □従業員数/26名(2019年1月現在)



ミスコンシャス(蒲郡市)はインターネット専門レンタルドレス事業を展開するベンチャー企業。同社には結婚や育児をきっかけに以前の職場を辞めざるを得なかった女性社員が多く活躍しており、職場でも自然と子育てを支え合っている。

代表の小山絵実さんが今回の受け入れ先。キャリア志向が強く、学生時代は外資系の金融会社やコンサルティング会社を目指していたという。現在は軌道に乗った会社を夫と経営しながら、4歳の一女を育てている。会社の成長も考えつつ、子どもとも

しっかりと向き合いたい、そんな小山さんの両立は「民間サービスなど、頼れるものは頼る」ことで成立している。夫婦ともにフルタイムで働いているため、休みの日に家事や買い物に時間を費やすのをなるべく避けて子どもとの時間を多く確保するため、家事代行はかかせないのだという。

「自分が思い描く良い母親像との違いを考えることもある」という小山さん。同社の女性社員からも、「誰かに言われたわけではないけれど、おかずの数を一品増やしたり、3歳までは子どもと一緒にいてあげない



金城学院大学2年 木戸美侖さん

### 個人が尊重される環境で自分らしく

女性が外でバリバリ働いたり、男性が家事育児で活躍したり、一人ひとりが異なる考えを持ち、生活することが尊重される未来が来れば良いと思う。自分自身も、学生の間にやりたいことに挑戦し、自分らしく生きたいと思った。



岡崎女子大学2年 脇田綾香さん

### 色々な考え方を受け入れる姿勢を

女性に向けられる「子どもができたら仕事を辞めますか?」という質問に以前は違和感を覚えなかったが、体験を通じて女性だけに家庭での役割を求めるのは違うと感じた。色々な考え方を認め、受け入れる柔軟な姿勢や、職場の雰囲気が重要だと思った。

とかわいそうと思ったりした」という経験談を聞き、女性が自分自身にプレッシャーをかけていることもあることを知ったインターン生は、「女性はこうあるべき、という固定観念にとらわれずに、自分の生き方を考えたい」と決意を新たにしました。

# Report 2

## 女性活躍のため大切なのは「女性自身の意識」

春日井製菓株式会社

□事業内容/菓子類の製造並びに販売 □本社所在地/愛知県名古屋市 □従業員数/557名(2019年1月現在)



創業90周年の春日井製菓(名古屋市)。トップの決断により女性活躍やワーク・ライフ・バランスなどを推進し、「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」の登録を始め、「えるぼし」など様々な認証も得ている。

今回の受け入れ先は、総務部で社内の制度をつくる立場でもある松下あゆみさん。中学2年生と小学4年生の男子を育てる母で、「日中は仕事に専念している分、帰ってきたら子どもとしっかり向き合うようにしている」という自身の子育ては、夫も子どもも自然と家事を手伝う家庭環境もあ

り、落ち着いてきている。育休中の社員が情報交換できる「パパママ会」を発足させたほか、男性社員が利用しやすいように短期で育児休暇が取得できる仕組みをつくるなど、自らの経験から得た反省を活かして「自分よりも下の世代が少しでも両立しやすいように」と取り組む。その姿を見て、「社員が望むように会社は変えられる」とインターン生は驚いた様子だった。

育休の対象者だけでなくその上司ともコミュニケーションをとり、休みを取得しやすい雰囲気をつくるなど、社内の意識改革にも



名古屋大学3年 松原広華さん

### 成果を出して貢献することも大切

女性は、会社が制度をつくって守っていかなくてはいけない存在であると考えていたが、きちんと成果を出して会社に貢献することも必要だと感じた。また、両立は女性だけがしっかりしないといけないものと思込んでいたがそうではないと知り、将来に自信が持てた。



岡崎女子短期大学1年 佐野もと実さん

### 自分の行動で環境は変えられる

「女性自身が考えて働かなくてはいけない」という言葉が印象に残っている。自分の行動によって変えられることがある。乗っかっていだけではないのだとわかった。今後、自分が何ができるのか、どうしたらよりよく生活していけるのかを考えていきたい。

目を向ける松下さんだが、女性活躍にあたって最も重要なのは「女性自身の意識」と語る。両立しながら成果を出してきた女性たちによって働く環境が整備されてきたことを知り、「女性が自ら考え、職責を果たす大切さ」を学んだ。

# Report 3

## 生き方の選択の責任を取るの、自分自身

瀬戸市役所

□職員数/746名(2018年4月現在)



瀬戸市役所で建築の許認可や空き家対策に取り組む平塚啓さんが受け入れ先。平塚さんは十数年前に長男の誕生を機に育児休業を取得。当時は人事担当者にも「男性でも育児休業は利用できるのか」と尋ねられたという。2017年も1月～3月までは三男(2歳)の育児のために二度目の育児休業を取得。現在は福祉施設で働く妻や、成長した長男(中2)、次男(小6)とチームで家事を行っている。

市役所でインタビューを行った育児中の女性職員から、「仕事と家庭の両立に、

女性だから、男性だからという考え方が必要かな?」と問われ、自分の中にも男性、女性の役割分担意識があることに気づいたインターン生。「お母さんじゃないとやれない、と考えていたことがお父さんでもできた」という経験談も聞くことができた。

平塚さんの家庭では、料理などの家事に参加する子どもたちを見て、男性が家事をする姿を見せること、また子どもたちに覚えた家事を積極的にさせることで責任感を養っている姿に感心した様子。

「生き方の選択についてまで、職場が責



名古屋大学3年 近藤由起さん

### 自分の中の先入観に気づけた

自分自身も男女の役割分担意識を持っていたこと、両立を阻む要因は自分自身にもあるということに気づかされた。固定的な見方は選択の幅を狭めてしまう。今後何か物事がうまく進まないときには、自分の中に先入観がないか立ち止まって考えたい。



岡崎女子短期大学1年 柴田咲穂子さん

### 精神的な負担をつくらない環境

「仕事と家庭の両立」は自分一人で色々こなさなければならず、難しいと考えていたが、平塚さんのお宅では両親(夫婦)が働いているのが当たり前で、職場では子育てや家庭の大切さを理解する同僚同士で支え合い、精神的な負担をつくらないようにする環境があった。

任を取ってくれるわけではない」という平塚さんの言葉に、自分自身でどう行動するかを考えたいと決意したインターン生。「家族と過ごす時間が無いような働き方はしたくないし、食べてしっかり寝られる生活が良い」という長男の言葉に感心していた。

# Report 4

## 有益な情報を収集し、共有することの大切さ

株式会社山田商会

□事業内容/ガス設備・配管工事など □本社所在地/愛知県名古屋市 □従業員数/650名(2019年1月現在)



ガスの配管工事を主な事業内容とし、創業110年という伝統を持つ山田商会(名古屋市)。現場仕事が多く、男性中心のイメージが強いが、「多様な社員が集まる組織は新しい発想が生まれやすい」という理念のもと、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進に取り組み、「くるみん」や「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」など様々な認証を得ている。

人事部で採用や教育、企業内保育所運営に携わる山崎晴香さんが受け入れ先。保育園に通う5歳、2歳の女兒を育ててい

る。お迎えに間に合うぎりぎりまで仕事することが多いため、退勤後は駅まで走るのもしばしばだという。

本人の言葉では「いつもばたばた」だが、インターン生から見ると「仕事も家事もきびきび工夫しながらこなしている」と映る。

職場体験中には社内と同じように仕事と家庭の両立をしている女性社員との座談会も実施。「どうしても夫にやって欲しいことはLINEで相談」「もういいや、と思うことが肝心」「一人で抱えすぎず、親や保育士さんも頼る」など女性社員各々の体験が語



大同大学3年 奥村友美さん

### 努力続けることが両立への道に

他の家庭ではどのように両立しているか知りたいという山崎さんの姿を見て、完成されているわけではなく、将来の事を考えてより良くしていきたい、と工夫を続けているのだと感じた。そんな努力を続けていくことが両立を可能にするのだと思う。



愛知工業大学1年 鴻上優香さん

### 自分も見習いたい吸収する姿勢

仕事と家庭を両立するために、家事や育児が中途半端になってしまわないよう、と先入観を抱いていたが、山崎さんの姿を見て、工夫で行えばいいんだと思った。また違う考え方を認めたり、吸収したりしようとする姿勢が家庭や職場で大切なのだと感じた。

られる中で、他の家庭で行われている工夫を吸収しようと興味を持って聞く山崎さん。その姿を「両立の努力家」と感じたインターン生は、夫婦や同僚とよく話をして、情報収集、情報共有する大切さを学んだ。